

# 会津地鶏の雌雄混飼の注意点とデビーク省略の問題点

福島県農業総合センター畜産研究所養鶏分場  
平成18年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

畜産 - 鶏 - 畜産ほ育・育成  
分類コード 07-04-40000000

## 2 担当者

齋藤美緒

## 3 要旨

現在の「会津地鶏・ふくしま赤しゃも飼養管理マニュアル」ではデビークの実施および100日齢までに雌雄別飼いをすることを推奨している。生産現場ではストレスの軽減など家畜福祉への配慮や省力化等を考慮してのデビークの省略や雌雄混飼を選択するケースがある。そこで、会津地鶏について雌雄の混飼とデビークの省略が生産性に及ぼす影響を調査した。

- (1) 雌雄別飼と混飼では育成率および増体に差は認められなかった。また、飼料要求率は混飼区が低い傾向にあった。
- (2) 雄は110日齢以降に上駕行動が観察された。このことから、110日齢以降は雌雄混飼では注意を要する。
- (3) デビーク省略区は70日齢以降、つきによる脱羽が顕著に認められた。
- (4) 対照区に比べ、デビーク省略区は17週齢生体重が1羽あたり雄で14g、雌で8g少なくなった。また、飼料要求率やと体表面のキズもデビーク省略区が多かった。育成率においては対照区が98%に対して省略区は86%となった。
- (5) 会津地鶏におけるデビークの省略は悪癖を助長する危険がある。悪癖が発生した鶏群は、キズによる肉質の低下、育成率の低下、出荷時体重の減少、飼料利用性の低下が確認された。デビークは悪癖の制御に有効であり、育成成績の低下を防ぐことができる。

## 4 その他の資料等

なし